



本レポートは、信金中金の海外駐在員等が最新のトピックスについて報告します。本稿では「**タイのリテール決済の動向**」について、バンコック銀行出向者から報告します。お取引先とりわけ海外関連ニュースに敏感な方々との意見交換時に、本稿をご参考いただけたら幸いです。

今月のトピックス：

1. タイ中央銀行が推進する電子決済サービス『PromptPay』が急速に普及
2. バンコック銀行のモバイルバンキングアプリ『mBanking』が海外送金に対応

現在、日本では多くの小売店や飲食店でキャッシュレス決済が導入され、人々の生活に浸透しています。多くの信用金庫取引先が進出しているタイにおけるリテール決済について、海外駐在員が普段から利用しているサービスを中心に最新の機能と併せてご紹介します。

1. タイ中央銀行が推進する電子決済サービス『PromptPay』が急速に普及

(1) 概要

PromptPay（以下「プロンプトペイ」という。）は、タイ政府がキャッシュレス社会の実現に向けて策定した国家計画「ナショナル E ペイメントマスタープラン」に基づくプロジェクトの一環として、2017年にタイ中央銀行が取扱いを開始した電子決済サービスです。

プロンプトペイは、1つの銀行口座と紐付けて支払い、受け取りを行います。個人間で送金する場合、相手先の口座番号や氏名の情報がなくても、相手先の口座に紐付けられた携帯電話番号があれば、相手先口座にリアルタイム送金ができるほか、統一 QR コード（1つの QR コードで複数の電子決済サービスに対応）による店頭での決済にも対応しています。足許では、飲食店や小売店だけでなくタクシーや屋台でも統一 QR コードが掲示され、多くの人々がプロンプトペイを利用しています。

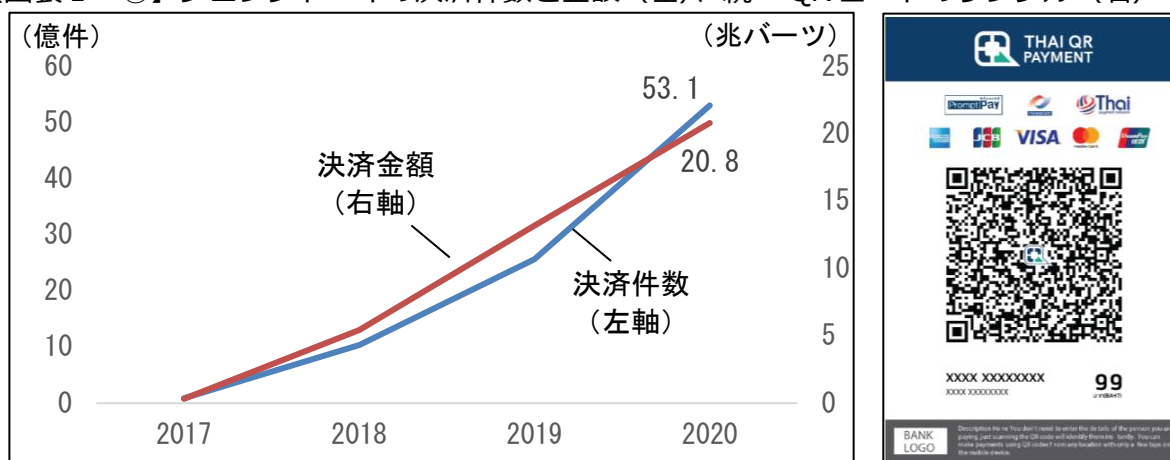
タイでは決済手段として現金が重視されており、タイ中央銀行の推計によると 2016 年時点で店頭支払いのうち 86.1%（金額ベース）が現金でした。タイには 5 種類の紙幣（1,000 バーツ、500 バーツ、100 バーツ、50 バーツ、20 バーツ）がありますが、タクシーや屋台では小銭が不足することも多かったようで、お釣りが不要なキャッシュレス決済のニーズがあったと考えられます。

プロンプトペイは 2017 年のサービス開始から急速に登録者数が増えており、2021 年 3 月時点では 56.8 百万人と人口（約 68 百万人）の 8 割にのぼります。また、2020 年にはプロンプトペイ決済件数 53.1 億件、金額 20.8 兆バーツ（約 73 兆円（1 バーツ：3.5 円として計算））となり、2017 年のサービス開始からわずか 4 年で決済手段として浸透しつつあります。

なお、主要 16 社のデータを集計したキャッシュレス推進協議会の利用動向調査によると、日本の QR コード決済市場における 2020 年の店舗利用件数は 27 億回、取扱高は 4.2 兆円となっ

ています。プロンプトペイは企業間取引を含むため単純比較はできませんが、タイでの高い普及度がわかります。

【図表 1 - ①】 プロンプトペイの決済件数と金額（左）、統一 QR コードのサンプル（右）

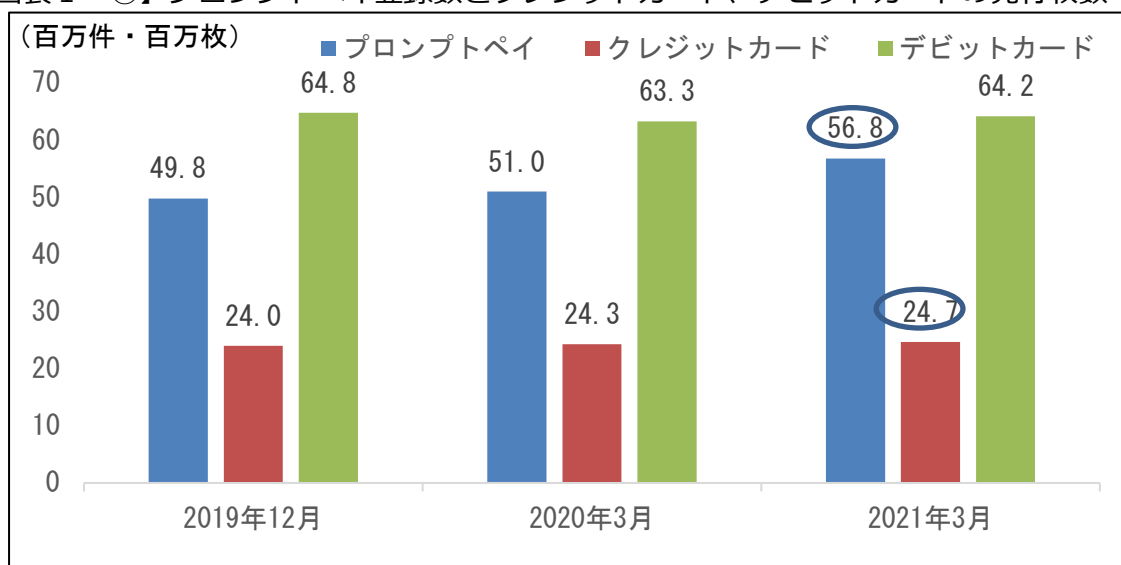


(出所) タイ中央銀行

(2) プロンプトペイを中心にキャッシュレス決済が普及した背景

2021年3月のプロンプトペイ登録者数は、クレジットカード枚数の倍以上、デビットカードに並ぶ勢いで普及が進んでいます。なお、デビットカードの多くがATMカードと兼用であるため、枚数の割に利用が進んでいるとはいえません。こうした中、東南アジア諸国において高い水準にある銀行口座と携帯電話の保有率、加えて、コロナ以前は年間1千万人規模を誇っていた中国人観光客が使用するQRコード決済の認知度向上を要因として、急速にプロンプトペイが普及したものと考えられています。加えて、プロンプトペイによる1回の決済額の上限は200,000バーツ（約70万円）ですが、支払側がスマートフォンから携帯電話番号の入力やQRコードの読み取りにより決済する場合、手数料が無料であることも普及の要因と考えられます。

【図表 1 - ②】 プロンプトペイ登録数とクレジットカード、デビットカードの発行枚数



(出所) タイ中央銀行

プロンプトペイで決済する場合、民間決済事業者が提供するサービスとは異なり、支払側だけでなく資金の受取側においても手数料が発生しません。

タイにおいても、日本と同様に、民間決済事業者が提供するサービスである「Rabbit LINE Pay」や「TrueMoney Wallet」があります。Rabbit LINE Pay は、2016年に公共交通システム等を提供する BTS グループと日本でも事業を展開する LINE グループの資本提携によるサービス、TrueMoney Wallet は、タイ最大の財閥であるチャロン・ポカパングループが運営する決済サービスですが、登録者数はそれぞれ、8 百万人（2020 年 9 月）、13 百万人（2020 年 5 月）にとどまり、いずれもプロンプトペイの登録者数を下回っています。

日本では、ペイペイやメルペイをはじめ、民間決済事業者がキャッシュレス推進のスタートアップとして先行した一方で、タイでは政府主導で導入が進んでいるといえます。

(3) シンガポールへのクロスボーダー送金に対応

プロンプトペイは、2021 年 5 月よりシンガポールへの送金の取扱いを開始しました。タイ中央銀行とシンガポール通貨金融庁が、タイの「プロンプトペイ」とシンガポールの「ペイナウ」の即時リテール決済システムを連携したことによるものです。

以下の提携銀行の顧客は、携帯電話番号を使って 1 日当たり 1,000 シンガポールドルまたは 25,000 バーツ（約 87,500 円）まで送金が可能となりました。

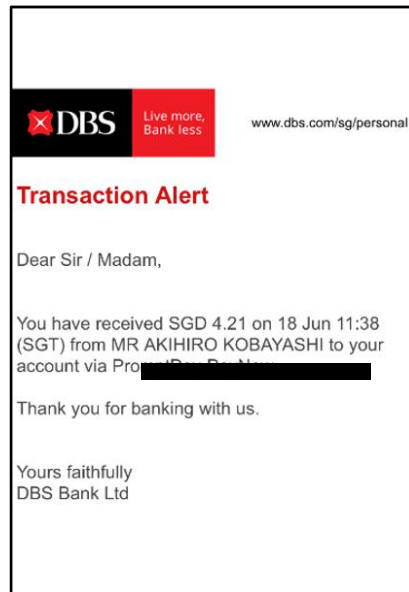
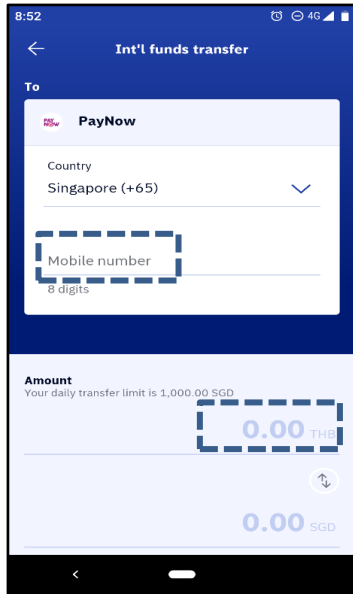
【図表 1 - ③】 リテール決済にかかるタイとシンガポールの提携行

タイ提携行	1.Bankgkok Bank Public Company Limited(BBL) 2.Kashikornbank Public Company Limited(KBANK) 3.Krung Thai Bank Public Company Limited(KTB) 4.The Siam Commercial Bank Public Company Limited(SCB)
シンガポール提携行	1.DBD Bank Limited(DBD) 2.Oversea-Chinese Banking Corporation Limited(OCBC) 3.United Overseas Bank Limited(UOB)

プロンプトペイによるシンガポールへの海外送金について、開業準備中である信金シンガポール(株)の現地職員と試したところ、受取人の携帯電話番号と送金金額を入力するだけの数分で手続きが完了しました。即時決済のため、すぐに受取人にメールで着金連絡があり、手続きのシンプルさとスピードは従来の海外送金を上回る印象を受けました。7 月末までは手数料が 75 バーツ（約 263 円）と安価である点も特徴的です（通常は 150 バーツとなります）。

【図表 1 - ④】 プロンプトペイの送金画面（左）とペイナウの入金案内（右）

プロンプトペイの海外送金メニューから、受取人の携帯電話番号（銀行口座と紐付き）と送金金額を入力するだけで、シンガポール提携行の口座に即時入金完了



(4) ASEAN 域内でさらに連携が進む見通し

上述のシンガポールに加えて、2021年4月にはタイ中央銀行がベトナム国家銀行と、6月にはマレーシア中央銀行と QR コードを利用した決済サービスを開始すると発表しました。クロスボーダー決済サービスを接続することで、ASEAN 域内の金融統合を促す「ASEAN ペイメント・コネクティビティー」構想の一環です。タイ中央銀行は、カンボジアやラオスとも同様の取り組みを進めており、新しい技術を活用した決済サービスの普及が見込まれています。

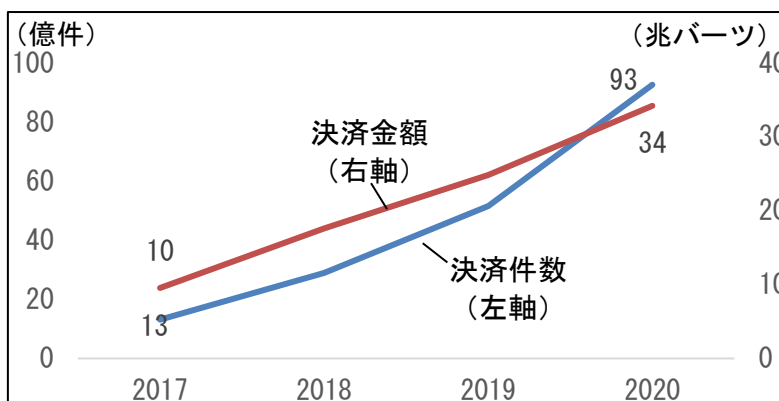
東南アジアの人々が再び旅行などで国境を越えた行き来ができるようになれば、インバウンド向け決済手段として今まで以上に注目されると考えられます。

2. バンコック銀行のモバイルバンキングアプリ『mBanking』が海外送金に対応

(1) 概要

タイでは QR コード決済以外にもモバイルバンキングを利用した国内送金や海外送金等の決済が普及しています。タイ国内のモバイルバンキングを通じた 2020 年の決済件数は 92.7 億回、決済金額は 34.2 兆バーツ（約 120 兆円）となり、件数・金額ともに急速に増加しています。

【図表 2 - ①】 モバイルバンキングの決済件数と金額



(出所) タイ中央銀行

バンコック銀行では個人向けアプリケーションとして mBanking を提供しており、スマートフォンなどで口座残高・取引明細照会、送金など様々なサービスを利用できます。

【図表 2 - ②】 mBanking の主なサービス内容

主なサービス内容	
残高・取引明細照会	クレジットカードの明細、支払い
国内送金	投資信託の売買
海外送金（2021年5月取扱い開始）	プロンプトペイ（上述）
QRコードの読取りによる請求書払い	カードレス預金引出し

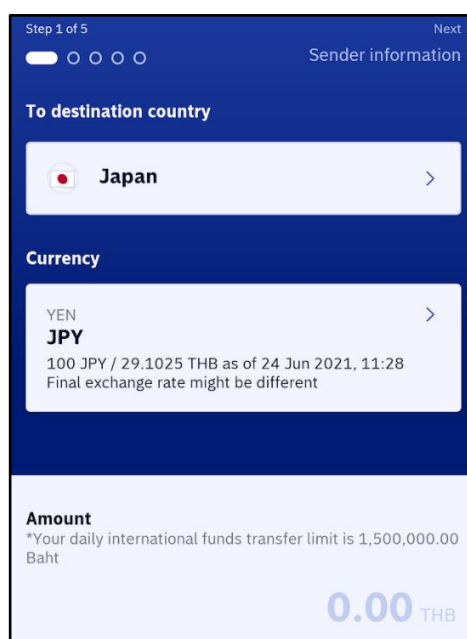
（出所）バンコック銀行ホームページ

（2）モバイルバンキングによる海外送金に対応

バンコック銀行では、2021年5月からモバイルバンキングでの17通貨、124か国に対応する海外送金の取扱いを開始しました。mBanking のアプリケーションから事前登録なく利用することができ、1日当たりの送金限度額は150万バーツ（約525万円）で、銀行営業日の午前8時30分から午後5時まで対応しています。

モバイルバンキングによる日本への海外送金を試したところ、店頭での送金と同様に、送金金額や通貨、swiftコードなど入力が必要ですが、翌日には着金が確認されました。取引条件によっては、各種規制によりタイ中央銀行やAMLオフィスから追加での書類提出を求められることがあります。モバイルバンキングでの海外送金ができる点は手軽に感じました。なお、日本向け送金手数料は送金人負担の場合2,400バーツ（約8,400円）となります。

【図表 2 - ③】 mBanking の送金画面



【送金の主なステップ】

- ①送金先の国名・引出口座・通貨・手数料・送金金額を入力
- ②送金依頼人の情報（氏名・住所・連絡先など）を入力
- ③送金先情報（氏名・金融機関・口座番号・swiftコードなど）を入力
- ④送金目的を選択
- ⑤送金内容の確認を行い、送金手続きが完了

最後に

タイのリテール決済は、コロナ禍で普及のスピードは加速しています。その領域は、タイ国内に限らず、日本をはじめとするクロスボーダー決済も手軽に、スピーディーに行えるようになっており、影響は今後も増すものと考えられます。

日本においてもキャッシュレス決済が浸透しつつありますが、タイでも日本と同等かそれ以上に人々の生活に影響を及ぼしています。リテール決済については、アフターコロナにおいて、インバウンド消費への対応などに影響があるので、引き続き現地の情報をお伝えしていきます。

<編集・発行>

信金中央金庫 海外業務推進部 企画グループ
東京都中央区八重洲1丁目3番7号

Tel: 03(5202)7703

E-mail: s1000860@facetoface.ne.jp

<信用金庫使用欄>

本レポートは、標記時点における情報提供を目的としています。したがって投資等についてはご自身の判断によってください。また、本レポート掲載資料は、信金中央金庫が信頼できると考える各種データにもとづき作成していますが、信金中央金庫が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は、予告なしに変更することがありますのでご注意ください。